

ユニークベニユール ベストプラクティス集

—地域ならではの施設の
新たな可能性に向けて—



地域ならではの魅力を持つ 施設・空間に関わる皆さまへ

本書は、各地の「博物館・美術館」「歴史的建造物」「神社仏閣」「城郭」「屋外空間（庭園・公園、商店街、公道など）」に関わる皆さまに、「ユニークベニュー＝“特別な場所”でのイベント実施により“特別な体験”を創造する取り組み」を知っていただくための「ベストプラクティス（好事例）集」です。また、イベント誘致や企画策定等で協力する、コンベンション・ビューロー、イベント・ミーティングプランナー、運営会社等の方々にも参考となるよう構成しています。

「博物館・美術館」「歴史的建造物」「神社仏閣」「城郭」などは展示物や建物自体に地域性や希少性があり、特別感のある施設です。また、「商店街」などの屋外空間は、地域の人々と交流できる魅力的な空間です。このような魅力的な地域資源を特別に開放し、有効活用する「ユニークベニュー」という手法が近年、海外を中心に定着しています。「ユニークベニュー」としての施設・空間の活用を積極的に行うことで、新たな来館者層の開拓、自己収入の獲得につながっています。

わが国においても、地域ならではの魅力を持つ施設・空間をより多くの人々に知ってもらえる機会となる「ユニークベニュー」を検討・推進していくにあたり、本書が参考となれば幸いです。

なお、平成26年度観光庁「ユニークベニューの開発・利用促進に関する調査」の一環として、地底の森ミュージアム（宮城県・仙台市）、小倉城天守閣前広場（福岡県・北九州市）においてモデルイベントを実施しました。本書は、そこで得られた知見（実施効果や課題の抽出等）を掲載していますので、あわせてご参照ください。

目次

はじめに

- 地域ならではの魅力を持つ施設・空間に関わる皆さまへ…………… 2
- MICE の利用者が求めるユニークベニューの用途…………… 4
- ユニークベニューとは、特別な場所×イベントで特別な体験を創造すること…………… 6

第1章 新たなユニークベニュー開発に向けて

- 歴史的建造物—旧齋藤家別邸〈新潟〉…………… 8
- 歴史的建造物—新潟市文化財旧小澤家住宅〈新潟〉…………… 12
- 施設担当者インタビュー…………… 16

第2章 ベストプラクティス

- 〈モデルイベント①〉
第3回国連防災世界会議の枠組みにおける国際専門家会合レセプション×
地底の森ミュージアム（宮城）…………… 18
 - 〈モデルイベント②〉「ICIAE2015」Extra Party ×小倉城天守閣前広場（福岡）…………… 22
 - 〈事例1 博物館・美術館〉
「CP+2013」オープニング・レセプション×横浜美術館グランドギャラリー（神奈川）…………… 26
 - 〈事例2 水族館〉イルカパフォーマンスと大水槽前でのパーティ×名古屋港水族館（愛知）…………… 28
 - 〈事例3 歴史的建造物①〉国際イノベーション会議「Hack Osaka 2015」前夜祭×山本能楽堂（大阪）…………… 30
 - 〈事例4 歴史的建造物②〉匠のおもてなし「GOKAN DINING」×高松城跡玉藻公園「披雲閣」（香川）…………… 32
 - 〈事例5 神社仏閣〉IPEC Hiroshima 2014宮島 International Night ×巖島神社（広島）…………… 34
 - 〈事例6 屋外空間①道路〉丸の内仲通り空間活用モデル事業2014×丸の内仲通り（東京）…………… 36
 - 〈事例7 屋外空間②道路〉
第32回国際泌尿器科学会総会（SIU）日本文化体験の夕べ（SIU ナイト）×川端商店街（福岡）…………… 38
 - 〈事例8 屋外空間③市場〉ICIS2013（国際計算機情報科学会）レセプション×ピア Bandai（新潟）…………… 40
 - 〈事例9 地域独自の施設①〉
さっぽろ MICE リーダーズサミット レセプション× JRA 札幌競馬場（北海道）…………… 42
 - 〈事例10 地域独自の施設②〉
「MTB コンポーネント M9000シリーズ キャンプ」ウェルカムパーティ×ガンガラーの谷（沖縄）…………… 44
-
- ベストプラクティスでの課題と検討内容一覧…………… 46
 - Q&A…………… 47

MICE の利用者が求める ユニークベニユーの用途



沖縄美ら海水族館（沖縄県）

Meeting

企業・団体などのミーティング

- 会議・セミナー会場として → 講堂、ホール、会議室
- レセプション会場として → エントランス、ホール



ガンガラーの谷（沖縄県）

Incentive

企業・団体などの報奨旅行

- 表彰式会場として → 講堂、ホール、会議室
- 表彰式のイベント・プログラムとして → 展示室（見学ツアー）
- レセプション会場として → エントランス、ホール



山本能楽堂（大阪府）

Convention / Conference

国際機関・団体・学協会が主催する国際会議など

- 国際会議の会場として → 講堂、ホール、会議室
- レセプション会場として → エントランス、ホール

Exhibition / Event

展示会・見本市、文化・
スポーツイベントなど

- イベント会場として
→ エントランス、ホール
- イベント・プログラムとして
→ 展示室（見学ツアー）
- レセプション会場として
→ エントランス、ホール



増上寺（東京都）

ユニークベニューとは 特別な場所×イベントで 特別な体験を創造すること



特別感と地域特性を演出する

MICE 誘致の鍵

博物館、美術館、歴史的建造物、神社仏閣、屋外空間などは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する拠点であるとともに、魅力ある貴重な観光資源でもあります。その魅力は国際会議や学術会議、企業ミーティング、展示会等の、いわゆる MICE* におけるイベントやレセプションの会場としての利用ニーズを喚起します。

MICE は学会、国際機関、政府機関、民間企業が有する最先端の情報や経験を集結させて、新しいことを生み出す取り組みであり、その開催地となることは地域への大きな経済波及効果も期待できます。そのため世界中の都市が、開催地となるために激しい誘致競争

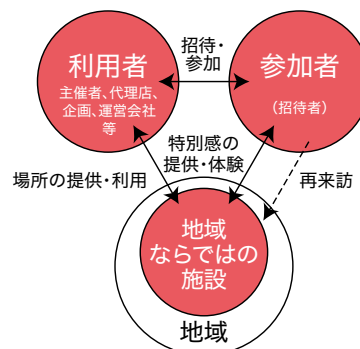
を展開しており、その重要な要素としてイベント参加者に特別感を提供し、地域特性を演出するユニークベニューの活用が鍵となっています。

積極的に開放する

欧米の施設

パリのルーブル美術館、ロンドンの自然史博物館などでは、国や自治体の MICE 振興と歩調を合わせて、積極的にユニークベニューとしての施設活用が行われています。博物館や美術館、歴史的建造物などにとっては、利用料収入が得られるだけでなく、これまでに接点がなかった層にも施設を知ってもらうことで、来館者や支援者の増加が期待できます。

■ユニークベニュー利活用による メリット



* MICE: 企業会議 (Meeting)、企業の報奨・研修旅行 (Incentive)、国際会議 (Convention)、展示会・イベント (Exhibition/Event) を総称したもの。

第1章 新たなユニークベニユー 開発に向けて

ユニークベニユー開発とは

ユニークベニユーとして使用が可能かどうかのポテンシャル調査のこと。ユニークベニユーの商品化のためには、①現地調査、②有力候補のリスト化、③商品化のための交渉や加工ののち、実際に商品化に必要な値付け、条件の設定を行う。ここで言うユニークベニユー開発とは、②の段階までのもの。

回遊式庭園、茶室、2階建て “迎賓館”本来の使い方という視点

旧齋藤家別邸は、砂丘地形を利用した回遊式の庭園と、近代和風建築の秀作といわれる開放的な建物が、大正時代の港町・商都新潟の繁栄ぶりを物語る文化遺産。当時、迎賓館として国内外からの来客をおもてなしした、施設本来の使い方という視点からユニークバニユー開発の方法を模索した。

○ポテンシャル開発の視点 参考項目

項目	可能性評価
日本的なもの・グレード	美しい庭園と格調高い和風建築。豪商の別荘で柳都と当時の繁栄ぶりと、日本文化を楽しめる。砂丘地形を活かした庭園は新潟ならではのもの。
人数	大広間は2つ合わせて20畳（収容人数20人）だが、大型催事は回遊式の庭園で実施することで、60人程度まで収容できる。
季節	秋はモミジの紅葉と松のコントラストが魅力。冬の積雪は多くないが、降雪時には雪国の情景も楽しめる。
時間帯	閉園（夏18時、他17時）以降は貸切可能。日没前の光景とライトアップのギャップをどう活用するかが鍵。
料飲の提供	文化財保護に注意が必要。持ち込み什器に対する床養生や害虫を避けるメンテナンス、飲食物による汚れへの対策などの配慮で、飲食は可能になる。
ケータリング動線	建物内に配膳室があり、温かい料理、冷たい飲み物の提供が可能。
アトラクション	庭園でのコンサートなど。
運営窓口	旧齋藤家別邸運営グループが管理。保護と活用のバランスのなかで、利用者へのサービス最大化に努めている。
サプライズ	主屋の各部屋や茶室などの小さなスペースの活用。また庭園に利用者を案内しながら主屋内でセットチェンジする演出ができる。
アクセス	新潟駅から車で約10分。専用駐車場がなく近隣の新潟市美術館にバス駐車場がないため、ピックアップのタイミングは注意が必要。
天井高	主屋内の土蔵は天井高があり、さまざまな展示や演出ができる。
前提条件	施設維持と保護に重点を置き、綿密な打合せが必要。

旧齋藤家別邸

大正時代の繁栄ぶりを物語る庭園と屋敷

新潟の三大財閥の一つで国会議員も務めた豪商四代目齋藤喜十郎が大正7年に建てた別荘。涼しげな山と美しい自然の風景を再現した池泉回遊式庭園と、随所にさりげなく銘木を使用した格調高い近代和風建築の主屋とが一体となった庭屋一如のコンセプトが特長となっている。

2009年に公有化され、2012年6月から一般公開を開始。市内にありながら深山幽谷の趣きを楽しめる人気のスポットとなっており、年間4万人を超える観覧者が訪れている。2015年春、国の名勝に指定された。

○新潟市中央区西大畑町576番地 ○<http://saitouke.jp/> ○TEL 025-210-8350



公開へのアプローチ

（ イベント実施の メリット提示 ）

- 施設・地域のブランディング
- 日本文化、地域文化の発信
- 文化財保護予算に対する市民の理解促進

（ 文化財保護の徹底 ）

- 使用条件の明確化
- メンテナンスなど課題解決法の共有
- 施設の魅力を理解している利用者と実施
- 飲食物による汚れへの対策

施設全体を活かす

回遊式庭園 / 茶室 / 2階建主屋

広間での会食だけに限定せず、全体を活かし、建設当時に国内外からの来客を迎え入れたときと同様に、迎賓館としての本来の使用用途を今に再現する。

- 回遊式庭園で歩く
- 茶室に座る
- 主屋1階と2階からそれぞれの景色を楽しむ



時間を活かす

昼と夜の二つの顔を見せる

ユニークベニュー活用は、特別感やサプライズをいかに演出できるかが鍵となる。

- (例) ○夏場には利用開始時間後に日没に入るため、
昼と夜の二つの顔を見せることもイベントの場面転換に活用できる。



空間を活かす

場面転換による演出

場の転換時には単に参加者を待機させる、移動させるだけでなく、変化としての演出を活用することが望ましい。

- 庭園にいる間に主屋で会食のセッティング
- 主屋にいる間に庭園で表彰式の準備をする



時間と空間による使い方

回遊式庭園と近代和風建築の主屋とが一体となった庭屋一如のコンセプトを活かし、屋内、屋外の空間の切替えを組み込んだ演出でより深い体験を参加者に提供する。四季それぞれの変化に加え、夜には主屋や庭をライトアップし幻想的な雰囲気をつくりだし、昼、夕、夜の異なる魅力を味わう演出が期待できる。



昼は、涼しげな山と美しい自然の風景を再現した池泉回遊式庭園で、四季折々の魅力を演出。主屋からの眺望を楽しむもよし、庭園の散策もよし。



(1階大広間：約32㎡)
夜は、竹灯笼の風情ある照明や明るい工業用投光器を併用して、幻想的な空間を創出。ロシア大使を招いたレセプションでは国際親睦に一役買った。

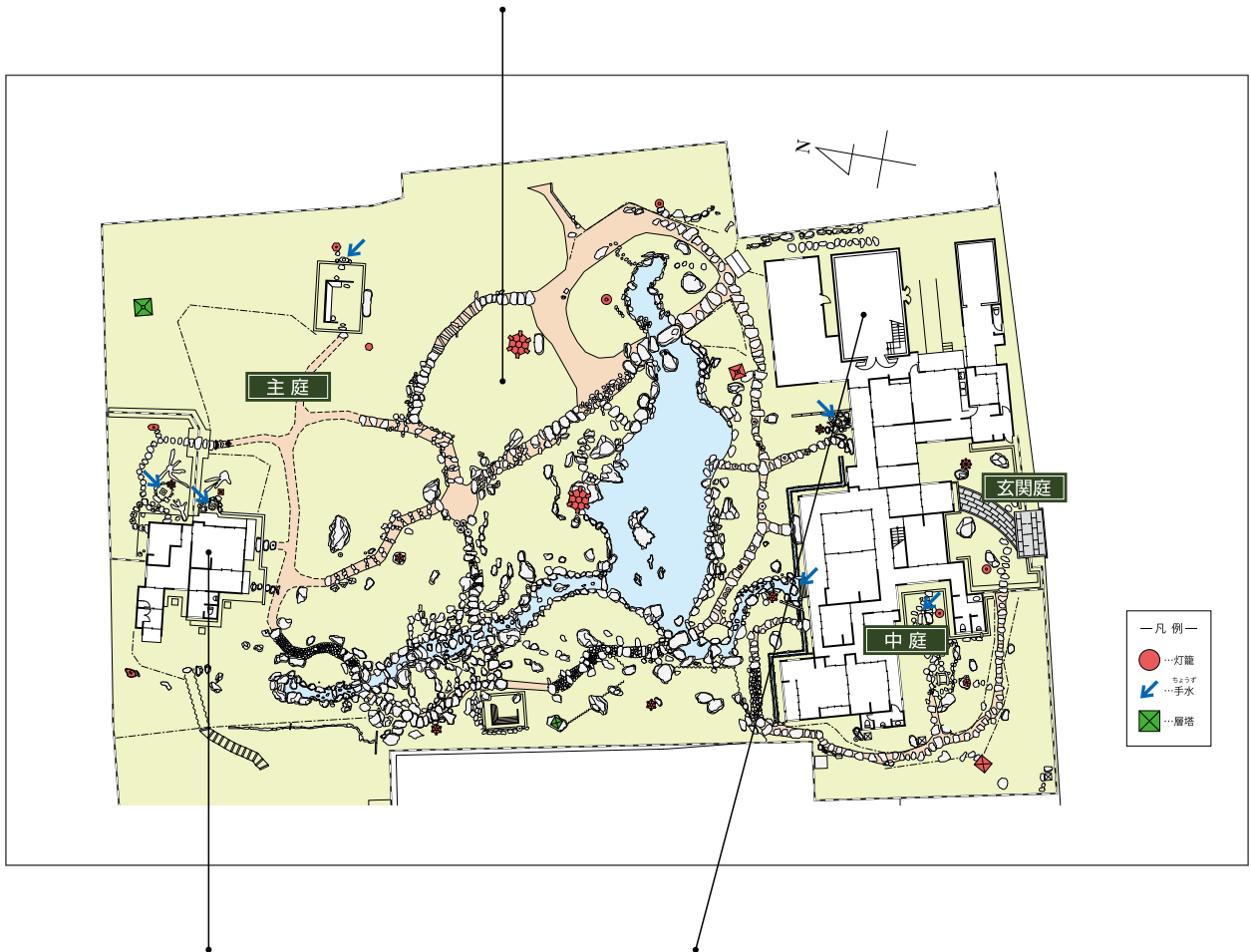
四季を楽しむ

秋には、池泉を中心に植えられた大小さまざまなモミジが紅葉し、取り囲むようにそびえ老松が、赤と緑のコントラストをうみだす。冬にはうっすらと雪化粧に。樹木に施した「雪吊り」は雪国新潟ならではの情景だ。



庭園の使い方

回遊式庭園で60人程度のレセプションを実施できる。場所による変化を楽しむ。庭を歩きながらのおしゃべりは、最適なネットワーキングの場に。



侘び寂び文化を体感する使い方

茶室で当時の会議文化を再現。体を屈めて入室するにじり口の由来から、当時の武家文化や人と人の距離感を体感。(約65㎡)



土蔵の使い方

主催団体に関連する物を展示し、学術分野と日本文化のハーモニーを演出する。(約50㎡)

豪商の生活文化を典型的な施設で 体感するおもてなしを提案

旧小澤家住宅は、かつての新潟町における町屋の典型例で、明治時代に成長した豪商の屋敷を構成する一連の施設が、ほぼそのまま残されている。
イベント利用においては、自主企画などこれまでの実績を活かし、文化体験の視点から開発ポイントを探る。

○ポテンシャル開発の視点 参考項目

項目	可能性評価
日本的なもの・グレード	建物内では北前船で栄えた港町の文化を見て体験できる。
人数	13～40㎡の6室が貸出し可能なため、各部屋ごとにテーマを持たせた展開をするなどして、複数の部屋を有効的に利用することで、50人程度の催事にも対応できる。
季節	藤ノ間や茶ノ間から見える中庭の景色で季節を感じることができる。 冬には雪吊りなど雪国の様子も楽しめる。
時間帯	貸出しは開館時間中に限る。
料飲の提供	近隣の料亭からのケータリングサービスが利用できる。
ケータリング動線	—
アトラクション	—
運営窓口	(公財)新潟市芸術文化振興財団が指定管理者。博物館の管理も行っており、文化財保護のノウハウを共有できるのが強み。事前打合せや共催などイベント運営に関わることもあり、それにより施設のポテンシャルを最大限に活かす工夫も行っている。
サプライズ	茶ノ間や藤ノ間から見える庭の活用の仕方、さまざまな演出が考えられる。 道具蔵は学会や産業分野に関連する展示などに効果的に使えそう。
アクセス	新潟駅から車で約15分。専用駐車場が3台。
天井高	一般家屋の構造で天井は低い。それを利用した演出が望まれる。
前提条件	施設維持と保護に重点を置き、綿密な打合せが必要。

新潟市文化財旧小澤家住宅

みなとまち新潟を築いた北前船の商家



江戸時代後期に米穀商として栄えた小澤家は、明治時代に入り廻船問屋、運送・倉庫業、地主、石油商と、商売の規模を拡大し、新潟を代表する商家の一つとなり、歴代当主は新潟政財界の要職で活躍した。豪商の屋敷構えは今も当時の姿のまま残されており、2006年には建造物7棟と敷地が新潟市文化財に指定され、2011年に一般開放がはじまり、年間1万4,000人を超える観覧者が訪れている。

○新潟市中央区上大川前通 12 番町 2733 番地 ○<http://www.nchm.jp/ozawake/> ○TEL 025-222-0300

公開へのアプローチ

- （ 文化の継承、海外への発信 ）

 - 文化資源を市民にとって身近なものにするため地元小学生の文化体験を実施
 - 日本文化の国内外への地域文化発信が公益性を担保する
 - 古き佳き空間や雰囲気に触れ価値を見出すことが文化の継承につながる
- （ 主催者と施設の綿密な打ち合わせ ）

 - 要望に応える解決策を見つけるために演出内容など事前に綿密な打合せをする
 - 催事の共催をし、施設を最大限に活かす協力も
- （ 地元企業のブランディングに貢献 ）

 - 西陣織の着物の展示会を開催

雰囲気を活かす

暮らしを体感するプログラム

時代の雰囲気を活かすプログラムは県外・国外向けには、知識的な面白さを提供することが肝要。建物や歴史のことを理解している管理者の協力が不可欠だ。



景色を活かす

鑑賞美を取り入れる

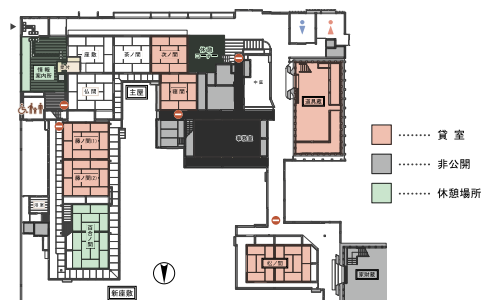
屋内からの庭園の楽しみ方として、風景画のように切り取った景色を堪能することができる。屋内から楽しむ庭園は、正座したときの目の高さに合わせて設計されている鑑賞美を取り入れたい。



一般客の理解を得る

貸切部分の明示

貸出した部屋は扉を閉めきり、来館者には看板でそのことを明示する。入館時には貸切部分があることを説明し、一般来場者の理解を得る工夫を施している。



明治・大正期の邸宅から 商家の邸宅を活

構造を楽しむ

親密度に合わせた会場構成

細長い町屋の構造を楽しむ。奥へ進むほど親密度がアップするという場の構造を活用したイベント会場構成も想定できる。

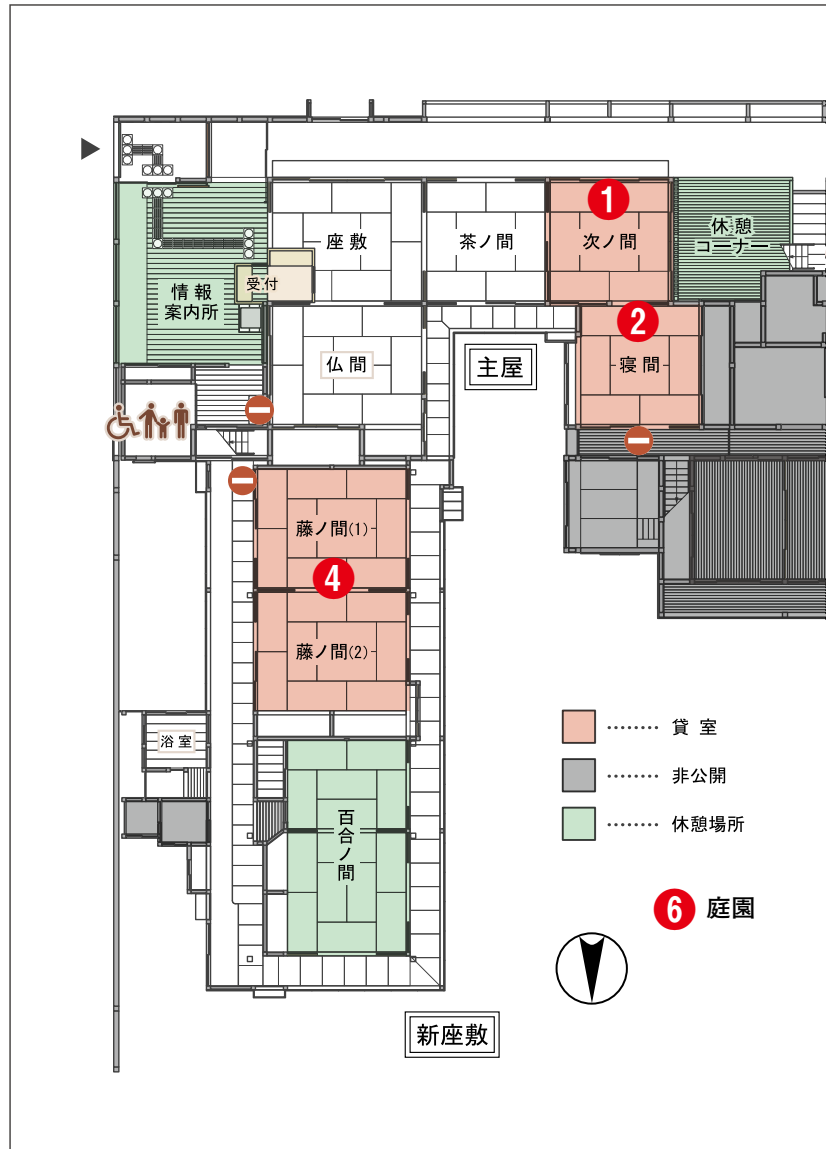
次ノ間・寝間



① 次ノ間 (13.36㎡)



② 寝間 (16.66㎡)



道具蔵



③ 道具蔵 (41.32㎡)

江戸時代後期から旧新潟町に現存する町屋では最古の蔵

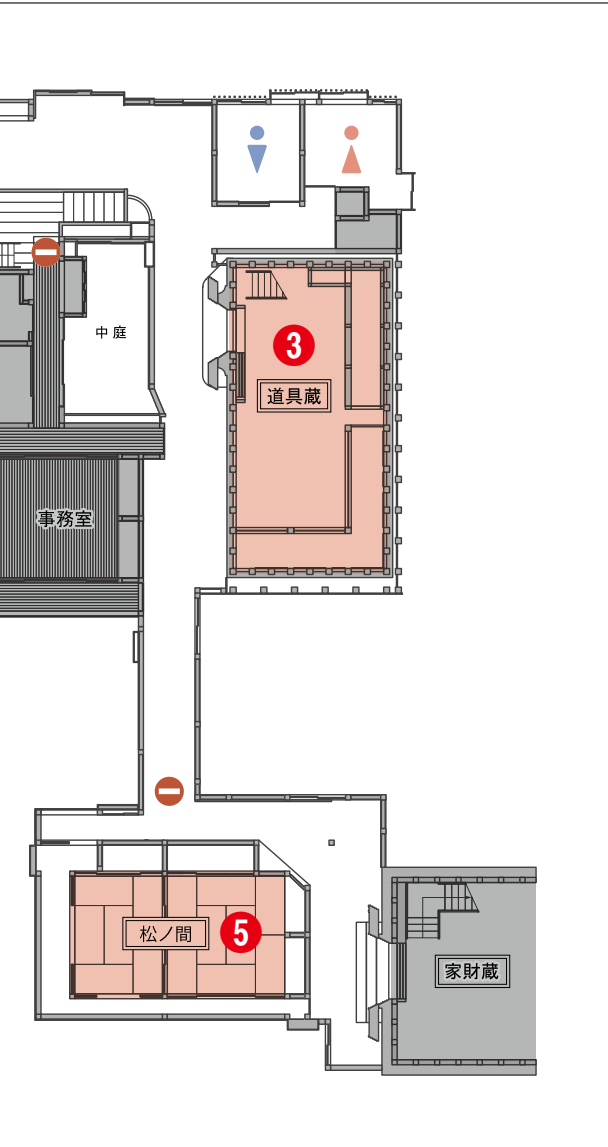
藤ノ間



④ 藤ノ間(1)=16.45㎡、藤ノ間(2)=19.84㎡

貸室として利用できるもっとも大きな部屋

商家文化を楽しむ 用した使い方



庭園



6 庭園

座った目線に合わせて設計された庭園。
“座る”生活様式に根づいた日本建築の
美しさを体感する

体験を楽しむ

歴史ある建物で伝統文化に触れる

日本文化を見て、触れて、使って、来場者に
本物の良さを伝え、新潟文化の発信につながる。

松ノ間

(離れ座敷 29.78㎡)



5 落語

日本文化の体験



5 飲食

新潟の地酒や産品でもてなす

保護と活用のバランス保ち 50年後にも市民の誇りで あり続ける



横木 剛 さん
旧齋藤家別邸

建物や庭自体が文化財である上に、建具の文様ガラスや漆器など、もう再生できない貴重なものが多く、保全には最大限の配慮をもって運営している。

しかし、生活文化を守るにはその時代に使用されていたとおりの暮らしを体感することが一番で、それが文化の保存・継承につながるという考えから、旧小澤家住宅は開放されている。「この施設は市民の財産です。みなさんに文化を見るだけでなく、触れて体験して、楽しんで学んでほしい」と施設の管理を行う田代さんは語る。

旧小澤家住宅では、毎年地元の小学生20人を公募・招待して、一夜泊まる文化財宿泊体験を実施している。また、西陣織の着物の展示会を風合いのある旧小澤家住宅で行ったこともある。

横木さんは、常に「保護と活用のバランス」に苦慮している。歴史的な時間の流れのなかで、社会情勢の変遷や多くの災害などから逃れて、奇跡的に昔のままの姿で残った文化財を保護することは重要なのは間違いない。

しかし、文化を50年後に引き継ぐ意味は、建造物や品物を物理的に保存すること以上に、市民が文化財の素晴らしさを理解し、文化財をもつ新潟に誇りをもてることが目的と考え、文化財に直接触れ身近に感じる事が重要だと考えた。市の財政から保守のための予算を獲得することにもつながる。そういう思いから、文化財を市民の憩いの場所として活用することも不可欠

みなどまち新潟の文化発信という目的にかなう催事には、共催したり、施設の魅力を最大限に活かす企画・実行に協力することもある。

旧小澤家住宅では、どんな問合せてでも最初から“NO”と言わないのがルール。

以前、コメや薬のアート作品を展示したいという要望があった。古い木造建築にとって、虫害等の恐れのあるアートの展示はタブーなのだが、作品を事前に燻蒸するなど専門学芸員のノウハウを活かして対応した。

事前の打合せを綿密に行い、制約条件のなかでなるべく主催者の要望に沿う方法を、地域連携も図りながら一緒に探し出すように、田代館長やスタッフは日々努力を重ねている。

だと考えている。

旧齋藤家別邸を管理する旧齋藤家別邸運営グループでは「100の期待には120で応えよう」を合言葉に、会食、茶会、レセプションなど、文化財保護を配慮しつつなるべく多くの要望に応えるように対応している。

顧客サービス向上のために、アンケートではなかなか出てこない、観覧者の素の意見を集めるために、SNS ツイッター、フェイスブック、ウェブなどで声を拾い集め、その意見をボランティアの説明に反映させている。

地理に不慣れな方にも相手の立場に立った道案内を心がけるなど、お客さま視点を常に意識し大切にしている。

文化発信の手段として 自主企画・催事の共催や 協力も



田代 雅春 さん
旧小澤家住宅 館長

第2章

ベストプラクティス

未開放施設を利用し、2件のモデルイベントを実施した。

新規ユニークベニュー開放促進に向け、開催までのプロセスにおける課題とその解決策を記載する。

○ 〈モデルイベント①〉 第3回国連防災世界会議の枠組みにおける国際専門家会合レセプション× 地底の森ミュージアム（宮城）……………	18
○ 〈モデルイベント②〉「ICIAE2015」Extra Party ×小倉城天守閣前広場（福岡）……………	22
○ 〈事例1 博物館・美術館〉 「CP+2013」オープニング・レセプション×横浜美術館グランドギャラリー（神奈川）……………	26
○ 〈事例2 水族館〉イルカパフォーマンスと大水槽前でのパーティ×名古屋港水族館（愛知）……………	28
○ 〈事例3 歴史的建造物①〉国際イノベーション会議「Hack Osaka 2015」前夜祭×山本能楽堂（大阪）	30
○ 〈事例4 歴史的建造物②〉匠のおもてなし「GOKAN DINING」×高松城跡玉藻公園「披雲閣」（香川）	32
○ 〈事例5 神社仏閣〉IPEC Hiroshima 2014宮島 International Night ×厳島神社（広島）……………	34
○ 〈事例6 屋外空間①道路〉丸の内仲通り空間活用モデル事業2014×丸の内仲通り（東京）……………	36
○ 〈事例7 屋外空間②道路〉 第32回国際泌尿器科学会総会（SIU）日本文化体験の夕べ（SIU ナイト）×川端商店街（福岡）……	38
○ 〈事例8 屋外空間③市場〉ICIS2013（国際計算機情報科学会）レセプション×ピア Bandai（新潟）	40
○ 〈事例9 地域独自の施設①〉 さっぽろ MICE リーダーズサミット レセプション× JRA 札幌競馬場（北海道）……………	42
○ 〈事例10 地域独自の施設②〉 「MTB コンポーネント M9000シリーズ キャンプ」ウェルカムパーティ×ガンガラーの谷（沖縄）…	44



遺跡の持つ本物の迫力、感動の共有

第3回国連防災世界会議の枠組みにおける
国際専門家会合レセプション

地底の森ミュージアム〈宮城県・仙台市〉



2015年3月14日～18日に仙台市で開催された『第3回国連防災世界会議』の枠組みにおいて文化遺産にまつわる“国際専門家の会合”が開催された。そのレセプションを、世界でも類をみない、2万年前の旧石器時代の遺跡をそのまま保存した遺跡博物館で行った。



イベント成功のポイント

- 地元のコンベンション協会、市・団体との事前調整による地域ならではのおもてなしの実現
- 遺跡の持つ本物の迫力、感動の共有
- 事前の課題洗い出しと対応



イベント概要

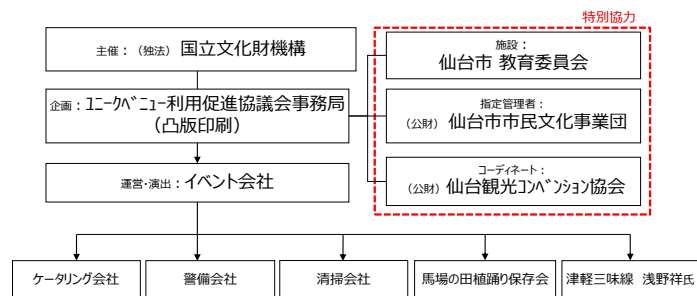
第3回国連防災世界会議の枠組みにおける
「国際専門家会合レセプション」

実施日時：2015年3月16日 17:00～19:00
会 場：地底の森ミュージアム（特別開放）
参加人数：世界18カ国から50名以上
内 容：館内見学後、レセプションを開催
主 催：独立行政法人 国立文化財機構



実施体制

企画策定時から地元のコンベンション協会・市と打合せを重ね、右記の体制でユニークベニューイベントを計画し、実施した。地底の森ミュージアムは、普段はユニークベニューとしての使用が許可されていない。世界各国の文化遺産関係の専門家にミュージアム観覧を提供できる良い機会ととらえ、地元の協力を得て、今回特別に、同施設でのレセプション開催が実現した。





プログラム概要

17:30	①歓迎挨拶	仙台市教育長
17:34	②演出1	秋保の田植踊（馬場の田植踊保存会のみなさん）
17:49	③主催者挨拶	国立文化財機構
17:51	④ご挨拶	東北運輸局
17:54	⑤来賓ご挨拶～乾杯	ICCROM
17:57	⑥歓談	※野外展示『氷河期の森』ライトアップ開始
18:17	⑦演出2	津軽三味線（浅野祥氏）
18:37	⑧歓談	
18:57	⑨中締	文化庁
19:00	参加者出発（お見送り）	



課題と解決策

課題① 展示保護

課題)

土壌や樹木を保護する保存処理剤の効果に影響があるため、湿度管理に敏感

解決策)

- 展示見学とレセプションを分けて実施
- 水蒸気の出ない料理に変更



展示見学



レセプション

課題② 英語対応

課題)

参加者のほとんどが外国人

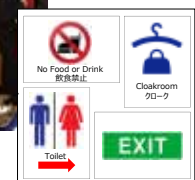
解決策)

- 通訳による英語対応
- 必要な物については英語版サインを準備

※観光庁では、美術館・博物館、自然公園、観光地、道路、公共交通機関等における、多言語対応の改善・強化のためのガイドラインを策定している



通訳による対応



英語版サイン

課題③ 一般客との棲み分け

課題)

地域住民からの理解獲得

解決策)

- 休館日に実施することで対応した

課題④ 地域ならではのおもてなし

課題)

その地域ならではのおもてなしで歓迎したい

解決策)

- コンベンション協会の協力を仰ぎ、地域らしい民族芸能「秋保の田植踊」と地元出身奏者による「津軽三味線」を披露



課題⑤ ハラル対応

課題)

イスラム教信者の方への配慮

解決策)

- メニューの一部をハラル対応メニューに変更
- 料理横に使用食材のパッケージ写真を掲出



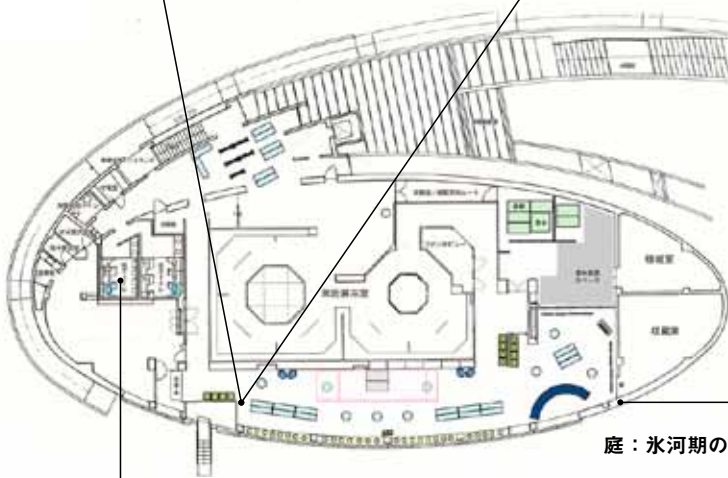
課題⑥ 関係者の理解獲得

課題)

施設関係者の理解獲得

解決策)

- 学芸員が主体となったプログラムの開催(石器製作の実演)



庭：氷河期の森

課題⑧ 特別感の付加

課題)

従来パーティを行うスペースではないため、パーティ会場の雰囲気演出することが必要

解決策)

- 普段実施していない、展望ラウンジ外の木々のライトアップを実施
- 室内のライティングをパーティ仕様に変更



課題⑦ トイレ

課題)

海外からの参加者が慣れていない和式トイレが半数を占める

解決)

- 仮設洋式トイレを設置

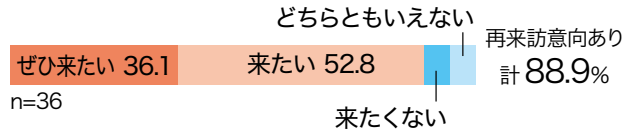


参加者アンケート結果

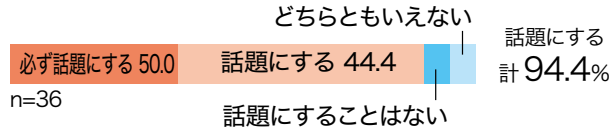
イベント参加者にアンケートを実施したところ、36名が回答。会場への再来訪意向の質問に対して、88.9%がこの会場への再来訪を希望した。

また、「会場」について友人・知人と話題にするかという質問に対しては94.4%が「話題にする」と回答した。

「会場」を再来訪するか



「会場」について仕事仲間・友人・知人と話題にするか



主催者ヒアリング結果 課題と効果〈イベント実施における課題〉

〈イベント実施における課題〉

- 暖色系照明・小物を活用し、会場を柔らかい雰囲気に。
- 館内での飲食は認められていないが、開催メリットを説明したこと、飲食不可のゾーンをしっかりと分けて展開したことで飲食許可を得た。
- 英語表記のサインを製作し、持ち込み対応。

〈イベント実施後の効果〉

- 土砂に埋没した古代の水田跡を見て現在の防災を考える機会を提供できた。
- 専門家に視察していただいたことは意義深かった。
- 参加者と学芸員のコミュニケーションも図れた。

Interview インタビュー



主催者

独立行政法人国立文化財機構
本部事務局長
栗原 祐司 氏



会場

地底の森ミュージアム
館長
金森 安孝 氏

ミッションの共有が成功環境を創る

今回のレセプションは、地底の森ミュージアムの多大なるご協力の賜物であることは言うまでもありませんが、ミッションを共有した専門家がおよそ1週間にわたる会議を終え、身も心も軽くなった状態で、稀有な博物館を見学し、伝統的な芸能を堪能しながらおいしい食事を楽しむことができたという点で、ユニークベニューとしての理想的な環境が整っていたと考えられます。こういう環境下では、参加者どうしの会話はずみ、多くの方々の記憶に残るイベントになったのではないかと思います。関係者の皆さま方のご尽力に対し、厚く御礼申し上げます。

魅力を次代につなぐのも博物館の大きな使命

当館は2万年前の湿地帯と、当時の生活の場が埋没した遺跡です。それを、現在の問題に絡めることで、第3回国連防災世界会議の関連行事に相応しい場を提供できたと思います。また、ユネスコの専門家に視察していただいたことは館のプレゼンス向上につながると期待しています。

博物館の展示物は、それぞれの時代で評価されて生き残ったものです。保護だけでなく、その魅力を次代につなげるのが使命。その可能性をふやすため、今回は観光とおもてなしという観点からも挑戦し、貴重な経験になりました。



夜桜花見体験による四季のイベント提案

「ICIAE2015」Extra Party



小倉城天守閣前広場〈福岡県・北九州市〉



桜満開の季節に“お城”という日本らしい空間での祇園太鼓など地元ならではの演出や料理で、世界各国からの国際会議出席者をおもてなしするレセプションが実現した。



イベント成功のポイント

- 北九州市観光・コンベンション課から小倉北区役所へ申請し、約1週間で公園の一部占用許可を得られた。
- 花見会場の雰囲気に合わせて大正琴の演奏を用意。
- 天守閣の閉館時間に見学し、貸切りの特別感を演出。
- 会場内を外から見えるようにして、市民への配慮も。
- ベジタリアン用の料理を用意。料理の保温にはIH調理器を利用し、消防への届け出を不要にした。



イベント概要

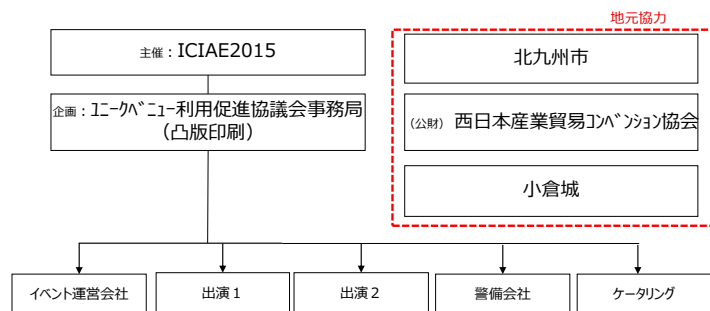
「ICIAE2015」Extra Party

- 実施日時：2015年3月30日 17:50～19:30
- 会場：小倉城天守閣前広場（天守閣入口スロープ横）
- 参加人数：70名程度（世界14カ国から参加）
- 内容：アフターコンベンションとして小倉城での花見パーティを開催
- 主催：ICIAE2015事務局
- 協力：北九州市、西日本産業貿易コンベンション協会



実施体制

小倉城天守閣前広場では、これまでもイベントの実施はあるが、国際会議のレセプションの開催は今回が初の試み。北九州市・西日本産業貿易コンベンション協会などの地元の協力のもと、桜満開の季節に“お城”という日本らしい空間での小倉祇園太鼓など地元ならではの演出や料理で世界各国からの国際会議出席者をおもてなしするレセプションが実現した。





プログラム概要

17:50	小倉城到着～天守閣見学	通訳も随行
18:30～19:00	レセプションスタート	
	北九州市歓迎挨拶	北九州市
	乾杯	ICIAE 主催者代表
	文化琴・大正琴演奏	(森ん子の会)
19:10	アトラクション (10分)	小倉祇園太鼓演奏 (保存会末広 2,3丁目)
19:25	締めの挨拶	九州運輸局



課題と解決策

課題① 公園の一部占用許可について

課題)

公共の場である公園の占用

解決策)

- 北九州市観光・コンベンション課より小倉北区まちづくり整備課へ申請
- 観光・MICE 推進の一環であると理解され、約1週間で一部占用許可が得られた



課題② 雨天対策について

課題)

隣接している小倉城庭園を雨天時会場として予定していたが、収容人数が足りない

解決策)

- 客席にテントを設けることで雨天決行に
- 雨天時は、テント周囲にも透明幕を覆い、テント内には防寒対策としてストーブを設置



課題③ 設備について

課題)

一般の花見客も多く、トイレが混雑
パーティ用の既存設備が会場にない

解決策)

- 一般用とは別に小倉城天守閣のトイレを借用
- 備品のテント、紅白幕、ステージ、テーブル、イスや、照明・音響機材、発電機、保冷車などを持ち込んだ



課題④ 小倉城天守閣見学について

課題)

通常、営業時間は17時までとなっている

解決策)

○営業時間外の特別対応

参加者からは特別対応が喜ばれ、拍手が起こった



課題⑤ 演出について

課題)

北九州市ならではのおもてなし演出

花見会場の雰囲気に合わせた演出

演出

解決策)

○小倉祇園太鼓の演奏

○文化琴・大正琴の演奏を実施



課題⑥ 飲食について

課題)

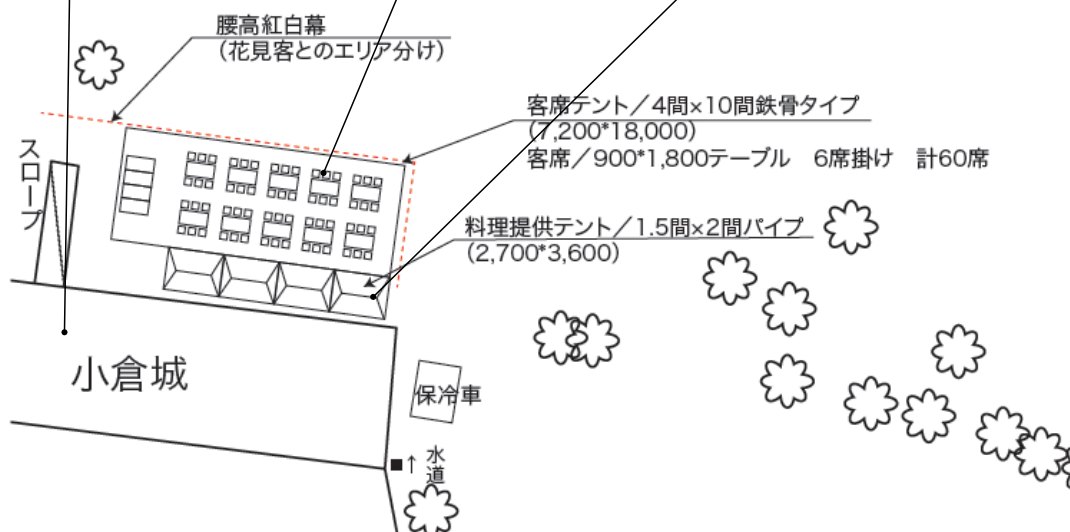
食品衛生法対応

火気使用の禁止

解決策)

○保健所申請については、不特定多数を対象とした営業行為ではないため不要だった

○料理の温めは、裸火ではなくIH調理器を使用することで、消防への届け出を不要とした

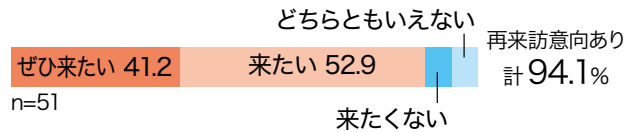


参加者アンケート結果

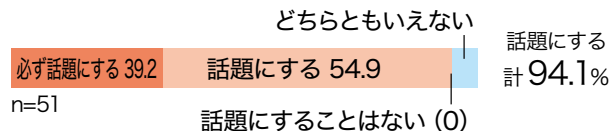
イベント参加者にアンケートを実施したところ、51人が回答。会場への再来訪意向の質問に対して、94.1%が再来訪を希望した。

また、「会場について仕事仲間・友人・家族と話題にするか」という質問に対しては、94.1%が話題にすると回答した。

「会場」を再来訪するか



「会場」について仕事仲間・友人・知人と話題にするか



主催者ヒアリング結果 課題と効果 〈イベント実施における課題〉

〈イベント実施における課題〉

- 関係者以外の入場を防止するため、警備員を配置した。
- 裸火が使用禁止のため、料理の保温にはIH調理器・発電機を利用。
- 雨天対策として客席にテントを設け、雨天時は、テント周囲にも透明幕を覆う用意をした。
- 砂埃が多く、テント内をじょうろ等で散水し対応。

〈イベント実施後の効果〉

- 小倉城天守閣見学が好評で、今後の国際会議等での活用に期待できる。
- 祇園太鼓の演出の際、周りに一般客が多数いたため、特別待遇されている感じを受けて良かったとの参加者意見あり。

Interview インタビュー



主催者

北九州市産業経済局観光にぎわい部
観光・コンベンション課 主任 MICE 担当
大和 武志 氏

関係者の理解獲得や 運営の工夫で課題解決

従来から小倉城でのレセプション開催という要望は多く、今回さまざまなハードルを越えて初めて実施できました。

公共の場である公園利用については管理する小倉北区役所に、観光・MICE 推進の一環であることが理解されご協力いただきました。また、パーティの様子を花見にきた一般客も見れるようにすることで、一般客の理解獲得に努めました。北九州市の条例では火気厳禁なのですが、料理の保温にIH調理器を採用するなど、運用面の工夫で解決できる問題もありました。

成功体験をもとに 利用の輪を広げたい

天守閣の閉館時間後に貸切利用することで特別感を提供しました。また、小倉祇園太鼓の体験プログラムには、積極的に参加する外国人が多く、大いに盛り上がりました。

城郭や桜を利用し日本的な演出が可能な小倉城をユニークベニューとして開放できること、その実績は国際会議誘致の強力な武器となります。もちろん市のブランディング向上の効果も期待されます。

これを成功体験として、小倉城のユニークベニュー利用を進めるだけでなく、美術館や博物館などさまざまな施設に利用・開放の輪を広げたいです。



特別展覧とのパッケージ企画をプラスし特別感提供

「CP+2013」オープニング・レセプション



横浜美術館グランドギャラリー〈神奈川県・横浜市〉



展覧会開催中でも休館日を利用するプランを活用し、エントランスの吹き抜け空間で飲食を提供するオープニング・レセプションを実施。カメラと写真の総合展示会「CP+2013」の関係者らに関心の高いコンテンツをパッケージにして特別感を提供した。



イベント成功のポイント

- 単なるレセプションパーティではなく、開催中の展覧会の特別観覧とのパッケージ企画にした。
- 特別観覧を参加者と親和性の高いコンテンツにした。
- 美術館エントランスの広大な吹き抜け空間で開催したことでイベントのユニーク度を高めた。
- 施設側が国内外からの来館をPRの機会と捉え特別協力の形で参画した。



イベント概要

「CP+2013」オープニング・レセプション

実施日時：2013年1月31日 17:45～20:00

会場：横浜美術館グランドギャラリー

参加人数：190人

内容：オープニング・レセプション時に横浜美術館の企画展「ロバート・キャパ／ゲルダ・タロー二人の写真展」特別観覧も実施した。

主催：シーピープラス2013実行委員会



プログラム概要

	時間	実施内容
第1部	17:45～18:45	展覧会レクチャー＋特別観覧
第2部	19:00～20:00	CP+ 2013 オープニング・レセプション



実施報告



オープニング・レセプション
グランドギャラリーで実施



企画展
企画展の特別観覧も実施

課題と解決策

項目	課題	解決策
展示空間	展示物の保護	火気厳禁
		生花持込み禁止
		赤ワインなど色の濃い飲料・液体の扱いを限定
		展示室開室中のアルコール提供禁止など

実施体制

シーピープラス2013実行委員会事務局が主催し、横浜美術館は特別協力として、会場準備、展覧会観覧の手配を行った。

〔主催〕
シーピープラス2013
実行委員会

〔特別協力〕
横浜美術館
(会場準備・展覧会観覧手配)



大水槽前で100～1,500人の食事会

イルカパフォーマンスと大水槽前でのパーティ



名古屋港水族館〈愛知県名古屋市〉



大型ビジョン付全天候型3,000名収容のメインプールで式典やイルカのパフォーマンスを鑑賞。大水槽前での食事が楽しめるなど、名古屋のユニークベニューの定番になりつつある。



イベント成功のポイント

- 200人までの催事はパーティエリア、立食は2階の水槽エリアで、式典は3階スタジアムを使うなど、人数に応じたエリアの使い分け、プログラム構成をすることができる。
- イルカパフォーマンスなど、水族館らしい演出で盛り上げる。



イベント概要

「イルカのパフォーマンスと大水槽前でのパーティ」

実施日時：休館日、夜間営業の日を除く

会場：名古屋港水族館

参加人数：最大1,500人の実績あり

内容：メインプールのスタンドで式典とイルカショー鑑賞。



プログラム概要

- | | |
|-------------|--|
| 17：30～ | 閉館・設営 |
| 18：00～ | 受付開始 |
| 18：15～19：00 | 3階スタジアムに集合
挨拶やコンサート
イルカパフォーマンス（約20分） |
| 19：00～20：30 | 2階に移動して立食パーティ |
| 21：00～ | 撤収 |





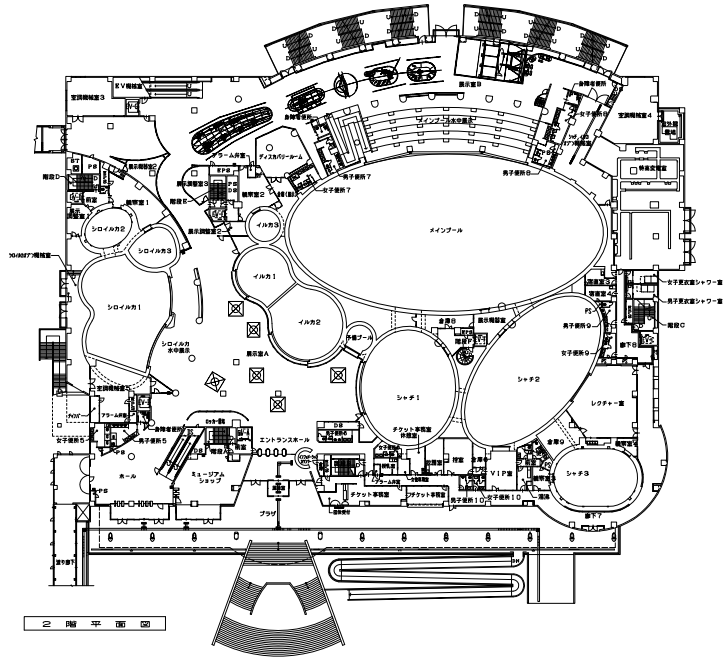
実施報告



大型ビジョン付全天候型3,000名収容のスタンドで式典とイルカのパフォーマンス



パーティは展示水槽の前で



課題と解決策

施設	課題	対象法令	関係機関	解決策
水族館	開館時間の制限	水族館条例（名古屋市）	名古屋港管理組合	催事開催前に案件ごとに説明し申請する

○公立の水族館であり、名古屋港水族館条例及び施行規則で、開館時間が季節ごとに決められており、閉館してからでないでと設営等を行うことができない。また、夜間の利用に関しては、開催ごとに内容等を名古屋港管理組合に説明して申請している。

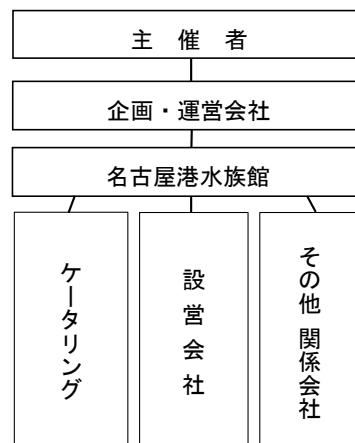
○照明や演出については、動物への影響を考慮したものが必要になる。

○開催中にフロア清掃員を配置し、飲食による汚れは即時に清掃。屋外では風により飲食物が飛ばされることもあり、細心の注意をはらっている。



実施体制

プログラムや演出の計画などは、主催者もしくは企画・運営会社が行う。映像、照明、テーブルなどの設営等手配は名古屋港水族館が協力会社を通じて提供する。ケータリングは館内のレストランを運営する水族館指定業者が提供する。





伝統芸能を鑑賞・体験し古典文化に触れる

国際イノベーション会議「Hack Osaka 2015」前夜祭



山本能楽堂〈大阪府・大阪市〉



「国際イノベーション会議 Hack Osaka 2015」に登壇する海外からのゲスト等の歓迎会を大阪市内の歴史的建造物である山本能楽堂で開催。能舞台を臨む空間で日本の古典文化に触れる経験は、参加者に深い印象を残した。



イベント成功のポイント

- 木造三階建てで宮大工の手による空間で「日本のおもてなしの心」をアピール。
- 能楽の実演とワークショップで、参加者の日本文化への理解と関心を高めた。
- 能面、能装束などを見て触れることで、日本の美意識と豊かな感性を体験してもらえた。
- 豊かな大阪文化を象徴する歴史的な空間でおもてなしをすることができた。



イベント概要

「Hack Osaka 2015」前夜祭

- 実施日時：2015年2月9日 17：30～20：00
会場：山本能楽堂
参加人数：前夜祭参加者約100人
内容：能「岩船」が披露されたほか、能についてのワークショップなど日本の伝統芸能・古典文化に触れた。
主催：公益財団法人都市活力研究所



プログラム概要

- 福娘による出迎え
- 開会の挨拶
- 乾杯
- 能「岩船」の鑑賞
- 能ワークショップ・ミニ体験講座
- 閉会の挨拶



実施報告



文化財である能舞台での記念撮影



福娘による出迎え



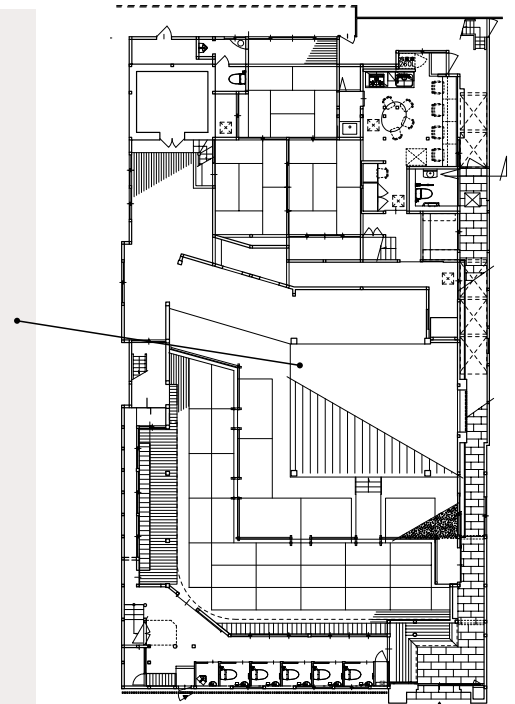
能および能面説明



能「岩船」の上演



貴重な能装束の体験



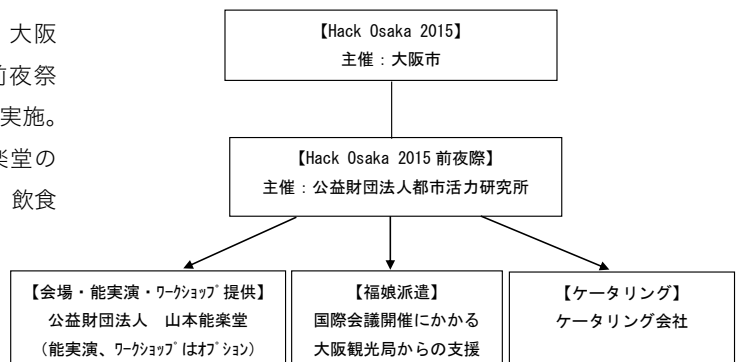
課題と解決策

施設	課題	対象法令	関係機関	解決策
歴史的建造物（能楽堂）	冬季における堂内の寒さ	文化財保護法	文化庁	補助金を活用し、床暖房設備を導入

「国のたから」として重要建造物等公開活用事業（文化庁）により、耐震補強を中心とした3年間の改修工事を行った。トイレや床暖房など衛生面、機能面での改修を実施し、より快適に利用者を迎えられるようになった。

実施体制

「Hack Osaka 2015」の主催（大阪市、大阪イノベーションハブ）・運営とは別に、前夜祭を公益財団法人都市活力研究所主催のもと実施。会場・能実演・ワークショップを山本能楽堂の協力、福娘派遣を大阪観光局の支援で実施。飲食提供は、ケータリング会社を活用した。





空間、食、器、五感で讃岐をいただくトータルプロデュース

匠のおもてなし「GOKAN DINING」



高松城跡玉藻公園「披雲閣」〈香川県・高松市〉



国の重要文化財に指定されている披雲閣内で、伝統工芸の匠の器と瀬戸内の食、ジャズ演奏を堪能する、五感を刺激するイベントを実施。匠がおもてなし役となったことで、交流が生まれ文化理解の促進、口コミ醸成への橋渡しにもなった。



イベント成功のポイント

- 玉藻公園と披雲閣、高松市ならではの伝統工芸や文化芸術を同時に県内外へPR。
- 夜間利用で、披雲閣庭園、そして庭園までの道のりをライトアップしたことで空間全体を幻想的・非日常的に演出し特別感を提供。
- 県内参加者には身近な場所の再訪問と地元文化の再発見を促し、地域住民としての誇りを生んだ。
- 口コミでの拡散効果もみられ、伝統工芸の質の高さや、披雲閣の建築技術の魅力の発信につながった。



イベント概要

匠のおもてなし「GOKAN DINING」

実施日時：2014年7月19日～27日 17：45～22：00

会場：披雲閣（旧松平家高松別邸）・玉藻公園

参加人数：食事提供数400人

（無料開放入園者数：5,103人）

内容：高松伝統工芸の匠制作の器で、瀬戸内の料理をジャズ演奏を聴きながら「五感」で楽しむ。

主催：高松市観光交流課



プログラム概要

■披雲閣

匠のおもてなし「GOKAN DINING」

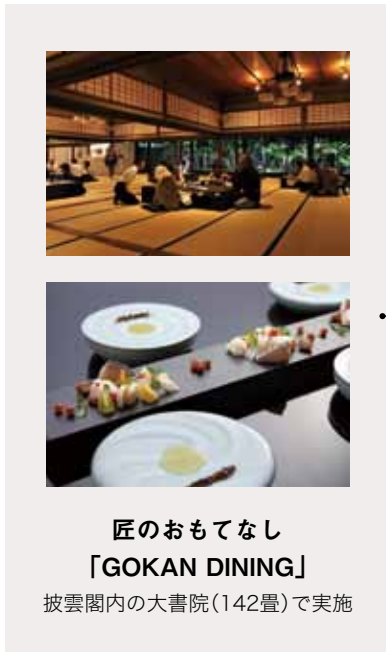
第1部 17：45～19：45 / 第2部 20：00～22：00

■玉藻公園

夜間無料開放で「ライトアップ&ミストシャワー」のイベント実施 19：00～21：00



実施報告



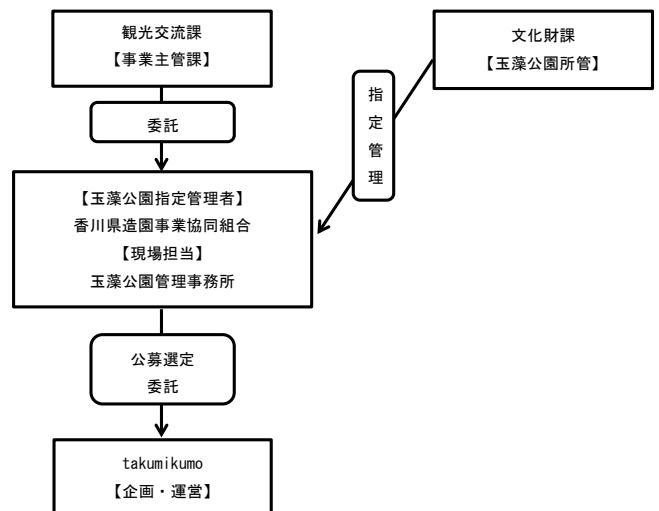
課題と解決策

施設	課題	対象法令	関係機関	解決策
屋内空間（披雲閣）	建物・調度品保護が必要	文化財保護法	文化庁	飲酒はNGにすることで飲食が可能に
屋外空間（玉藻公園）	時間外利用	高松市玉藻公園条例	高松市	市が主催することで時間外利用が可能に

他には、広報期間が短かったため、県外観光客を誘致するための広報手段について、改善が必要との課題が挙げられた。

実施体制

高松市が高松城跡玉藻公園管理事務所と事業委託契約締結という形で実施。市の委託事業だったが、企画・運営事業者が指定管理者と一体になって取り組んだ。また、関係者が多岐にわたったため、各機関との連絡を密にとりつつ、それぞれの役割を確認しながら進行。準備から実施までは、約3カ月のスケジュールとなった。





世界文化遺産での文化体験・交流機会創出

IPEC Hiroshima 2014

宮島 International Night



厳島神社〈広島県・廿日市市〉



世界文化遺産であり、広島県を代表する観光地・宮島。厳島神社への参拝や宮島表参道商店街での食事・買い物は、日本文化体験と地元住民との交流機会を提供して参加者の満足度だけでなく、地元住民のユニークベニュー開発の理解促進につながった。



イベント成功のポイント

- 世界文化遺産「宮島」という日本を代表する美しい観光地で開催できた。
- IPEC 開催決定の早い時期から活動を開始した。
- 宮島料飲組合等の地域、広島観光コンベンションビューローの力、中国運輸局・観光庁のバックアップにより、主催者と連携できた。
- 比較的静寂な時間帯を活用できた。



イベント概要

「宮島 International Night」

実施日時：2014年5月19日 17：30～20：30

会場：厳島神社・宮島表参道商店街など

参加人数：420人（外国人350人、日本人70人）

内容：厳島神社での正式参拝や日本文化体験演出、宮島表参道商店街での飲食・買い物を楽しむ。

主催：IPEC 実行委員会

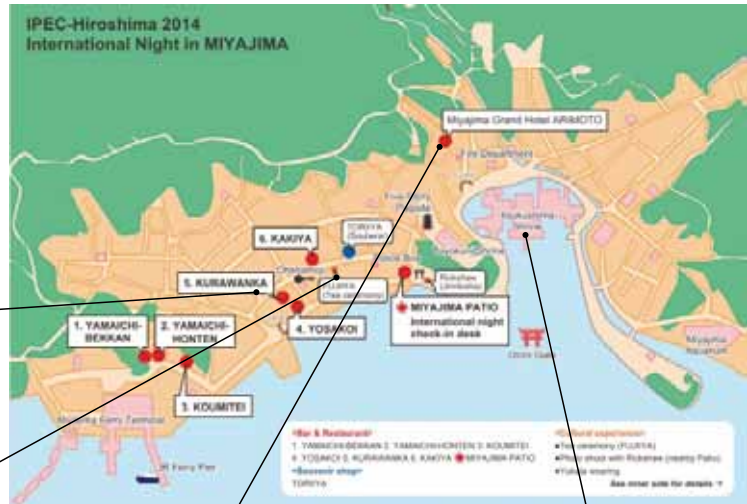


プログラム概要

時間	行程	実施内容
16：20	広島国際会議場からシャトルバスで出発	
16：30～17：00	バス・フェリーで宮島へ移動	宮島でのタイムスケジュールとルールを説明 (バスの中)
17：15～	宮島パティオで受付	協力店舗のクーポンを配布
17：20～18：20	ウェルカムドリンク、飲食店へ移動	
18：20～	各店舗でお食事・歓談	
20：00～	Night View Time	厳島神社と大鳥居のライトアップ鑑賞
20：42 / 21：25	2グループに分かれ、フェリー出港	



実施報告

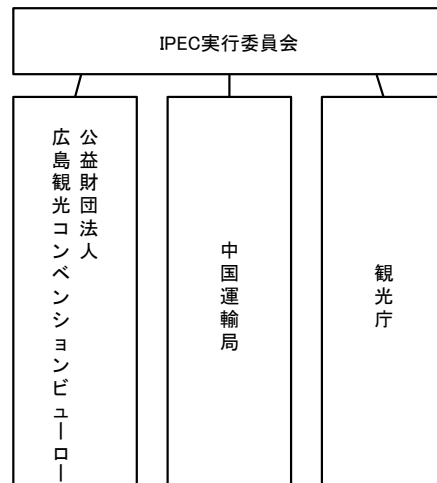


課題と解決策

項目	課題	解決策
神社仏閣（厳島神社）	時間外利用	正式参拝の開始・終了時間が決まっていたが、厳島神社に主旨を説明し理解を得られ、時間外利用が可能になった

実施体制

本部の実行委員長、各店舗の幹事・運営事務局・実行委員、各店舗補助の学生アルバイト・ボランティア等、広島観光コンベンションビューロー・中国運輸局・観光庁のバックアップにより、主催者と連携できた。





オープンカフェによる、快適な歩行者空間の実現

IBA(国際法曹協会)年次総会2014

丸の内仲通り空間活用モデル事業2014



丸の内仲通り〈東京都・千代田区〉



丸の内仲通りは、日本を代表するビジネス街、大手町・丸の内・有楽町地区（東京都指定「東京ビジネスイベント先進エリア」の一つ）を貫く幅21m、長さ1.2kmの都心の街路空間。歩道と車道を一体的に整備し、回遊する憩いの場、イベントの舞台という「快適な交流空間」となっている。



イベント成功のポイント

- 東京国際フォーラムでのIBA年次総会2014の開催にあわせ、同地区の「都心型MICE」の特徴となる国際都市に相応しい快適な歩行者空間の在り方を検討した。
- 地元行政も参画する実行委員会を組織。エリアマネジメント団体が事務局となった。
- エリア内の地権者・ビル管理者の協力を得ながらさまざまな施設・主体の参加が得られた。



イベント概要

「丸の内仲通り空間活用モデル事業2014」

実施日時：2014年10月18日～24日

会場：丸の内仲通り

参加人数：6,000人超の国際会議参加者（多くの外国人を含む）、区内就業者、来街者

内容：歩行者天国として開放し、飲食店のテラス席や道路上にテーブルやイスを設置。路上ライブも実施。

主催：丸の内仲通り空間活用モデル事業2014実行委員会



プログラム概要

- 歩行者天国 オープンカフェ等の実施
 - 飲食路面店が屋外にテラス席を拡大
 - 車道にイス、テーブル、パラソルを配置交通規制時間帯：平日7：00～22：00、土日9：00～18：00
 - 賑わい展開 期間中毎日、ランチタイムを中心にコンサートの開催
 - ユニークベニュー演出
- 期間中平日、夕刻からジャズ演奏等の実施による路上パーティ空間の創出



実施報告



<h3>屋外テラス席拡大</h3>  <p>②④丸の内仲通りに面した飲食店3店舗が道路上に客席を拡大したテラス席を設置。</p>	<h3>イス、テーブル等設置</h3>  <p>①③⑤人々が集いやすい場をつくることで、まちに賑わいと交流を創出。</p>	<h3>コンサートの開催</h3>  <p>①～⑤日替わり ミュージシャンがランチタイム等に憩いのひと時を演出。</p>	<h3>パーティ空間の創出</h3>  <p>②平日夕刻からジャズ演奏等の音楽とお酒を楽しめる空間演出。</p>
---	--	--	---

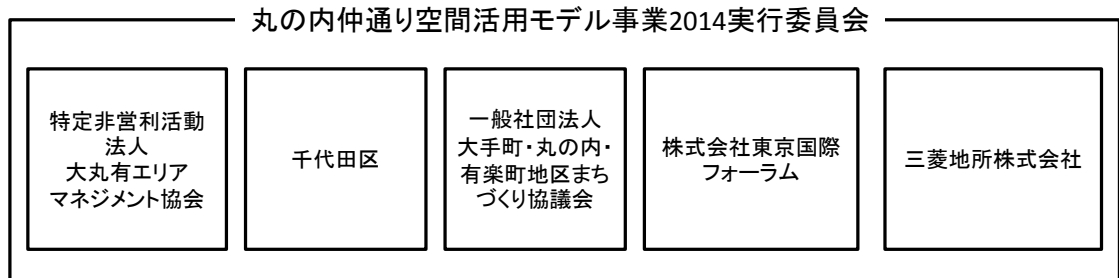
課題と解決策

施設	課題	対象法令	関係機関	解決策
屋外空間（道路）	道路使用許可（開催期間通期の交通規制）	道路交通法	警察署	イス、テーブル等を夜間は撤収し、毎朝設置し直した

オープンカフェ等実施時間帯以外の道路使用が認められず、飲食路面店のテラス席や車道に設置したイス・テーブル・パラソルを夜間は撤収し、毎朝車道封鎖後に設置をし直した。規制標識の表示替えなども含め大変な作業であり、実施にあたって大きな課題となっている。道路法の占用特例制度により道路の活用が図りやすくなったが、取組み内容や実績に応じた柔軟な道路使用の考え方の導入等、道路活用のためのトータルな緩和制度が期待される。

実施体制

実行委員会を下記の5団体で組織し、実施。





生活空間を会場にし、日本らしさを提供

第32回 国際泌尿器科学会総会(SIU)
日本文化体験の夕べ(SIUナイト)



川端商店街〈福岡県・福岡市〉



博多どんたく・祇園山笠・せいもん
払いなどの発祥地で、「博多の心に出会
う街」と言われる川端商店街。土産物
屋や博多名物を出す料理店など84
店舗が並ぶ400mのアーケードを
会場に、国際会議のレセプションが開催
された。



イベント成功のポイント

- 商店街で開催することで、屋外開催で懸念される騒音問題の心配がなく、遅い時間帯まで実施。
- 安全確保や警備員の配置決めについて福岡市や警察と事前に協議したため、運営はスムーズに実施。
- 一般客も通行するようにしたため、参加者と地元の人との交流が生まれ、参加者からの評価が高まった。



イベント概要

「日本文化体験の夕べ (SIU ナイト)」

実施日時：2012年10月1日
会 場：川端商店街 84店舗 ※18店舗で飲食提供
参加人数：2,100人 (総会参加者は105カ国から約3,500人)
内 容：「第32回国際泌尿器科学会総会 (SIU)」の
ガラディナーとして実施。飲食はスタンプ
ラリー方式で提供し、6,000食にのぼった。
主 催：日本泌尿器科学会



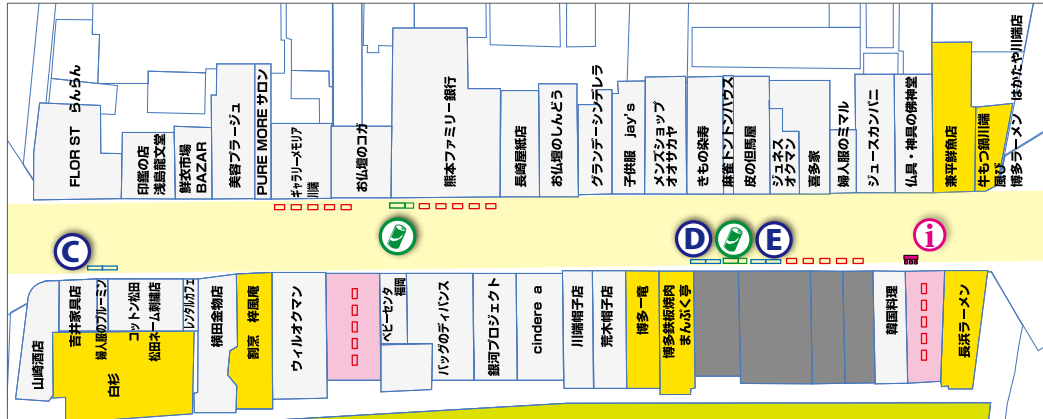
プログラム概要

19:00～19:15	青龍太鼓
19:20～19:35	博多金獅子太鼓／回遊
19:40～19:55	花の会 三味線
20:00～20:15	こんべい党 ちんどん／回遊
20:20～20:35	青龍太鼓
20:40～20:55	花の会 三味線



実施報告

③～⑤ 緑日関係 ① インフォメーション ② ドリンクブース



※全体概略図より一部抜粋



飲食の提供
博多ならではの料理も



緑日コーナー
ヨーヨー釣りも行われた



日本芸能の披露
特設ステージで和太鼓演奏

課題と解決策

施設	課題	対象法令	関係機関	解決策
屋外空間 (道路、商店街)	道路占用許可	道路法	道路管理者	開催主旨、事業の内容を丁寧に説明し許可を得た
	道路使用許可	道路交通法	警察署	県警本部、所管警察署との協議を重ね許可を得た

実施体制

単なるパーティではなく、文化交流事業として位置づけ、その中で日本の食も体験してもらう仕掛けにした。具体的には、近隣文化施設や神社を活用し、文化体験イベント、伝統芸能・文化公演をパーティとの同時開催とした。

その上で、商店街通路が公道（市道）であることから、歩行者の安全確保のための警備体制確保、必要最小限の設置物配置という視点から、細かい資料を作成し、内容を整えながら協議を進めた。





市場ならではの開放感と旬の食材を利用した地場のおもてなし

ICIS2013(国際計算機情報科学会)レセプション



ピア Bandai〈新潟県・新潟市〉



“かもめ舞う 湊の賑わい にいがた食市場”をテーマとする「ピア Bandai」は、観光客も地元住民も訪れる観光振興と物産振興の両面を併せ持った複合施設。新潟の食材が揃う旬鮮市場でバーベキューパーティを開催した。自慢の地酒コーナーも設置し、新潟の食と酒を堪能する。



イベント成功のポイント

- 市場という屋外空間を利用したユニークさ。
- 海鮮バーベキュー、新潟自慢の日本酒 Bar、マグロの解体ショーなど地元の味覚を提供。
- ジャズバンドの演奏で雰囲気が良くなった。
選曲を外国人向けにし、参加者の好評を博した。
- 多目的に利用してもらいたいという会場の考えと、
学術学会参加者への体験提供を目指す
観光コンベンション協会の考えの方向性が一致した。



イベント概要

「ICIS2013 (国際計算機情報科学会)」レセプション

実施日時：2013年6月16日～20日

会場：ピア Bandai

参加人数：127人（うち国外：17カ国61人、新潟県外：64人）

内容：市場でおろした海鮮バーベキュー、新潟自慢の日本酒 Bar、マグロの解体ショー、ジャズ演奏。

主催：ICIS2013 Organizing Committee



プログラム概要

18：30～18：35	会長挨拶・乾杯
18：35～18：40	「にいがた観光親善大使」の 歓迎スピーチ
18：45～19：00	佐渡産マグロの解体ショー
19：00～19：15（1回目） 19：30～19：45（2回目）	JAZZ バンドの演奏
20：00～	閉会のスピーチ



実施報告



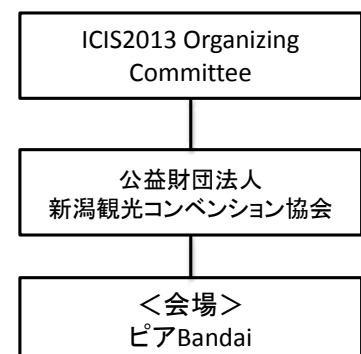
海の幸、日本酒、マグロの解体ショーなど、新潟の特色を活かした演出が海外からの参加者に好評だった

課題と解決策

項目	課題	解決策
屋外空間（テント）	天候の影響を受けやすい	代替地や代替案を考える。寒さ対策が十分できない冬場の利用は避ける
収容人数	立食最大 200 名程度	大人数の場合、バックアップの準備が必要
案内表示	案内表示が日本語	開催に際し、英語表示を施す

実施体制

主催者である ICIS2013 Organizing Committee より依頼があり、公益財団法人新潟観光コンベンション協会から会場に打診。会場であるピア Bandai が料理や演出の提案をして今回の実施に至った。





国内初の競馬場でのレセプション開催

さっぽろ MICE リーダーズサミット レセプション



JRA札幌競馬場〈北海道・札幌市〉



さっぽろ MICE リーダーズサミットの
歓迎レセプションとして実施。

“Wonder（驚き） Full（一杯）”をテーマに、ウェルカム、ディナー（ケータリング）、競馬観戦の3エリアで構成。



イベント成功のポイント

- 国内初の競馬場でのレセプションは、札幌市等が公益性・安全性等を担保し実施可能となった。
- インバウンドを含む観光・MICE との連携により、競馬場の認知度向上につながった。
- オフシーズンにおける施設の有効活用の良い実践例となった。
- 市内中心部から至近、広大な緑に囲まれ、騒音やアクセスなどの問題もなく実施できる。



イベント概要

「さっぽろ MICE リーダーズサミット」 レセプション

実施日時：2015年3月5日 18：00～20：20
会場：JRA 札幌競馬場（延床面積 約41,927㎡）
参加人数：80人（うち海外10カ国・地域31人）
内容：ウェルカム、ディナー（ケータリング）、競馬観戦の3エリアで構成。
主催：さっぽろ MICE 推進委員会



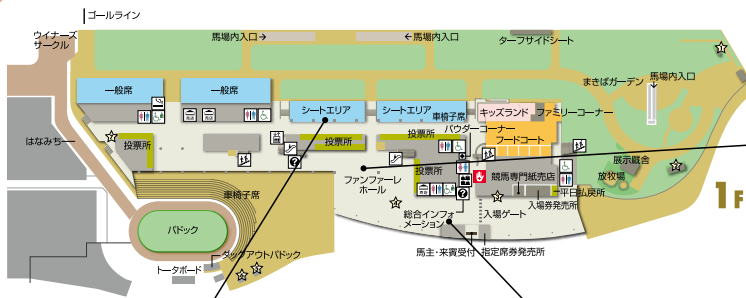
プログラム概要

- 第1部 18：00～18：20
ウェルカムスペースでの歓迎、パフォーマンス（ポニーの歓迎、リビングスタチュエ、各種実演など）
- 第2部 18：25～19：45
ディナースペースでの食事、アトラクション（ファンファーレ、プロジェクションマッピング）
- 第3部 19：50～20：20
大型ビジョンでオリジナル競馬レースを観戦





実施報告



競馬観戦エリア

Sapporo MICE Derby 2015

大型ビジョンによる
オリジナル競馬レース

ウェルカムエリア

ポニーの歓迎

ICE FLOWER
(氷花)の実演

花結いの実演

ディナーエリア

氷花装飾セレモニー

時計台のプロジェクション
マッピング

よさこい SORAN 踊り



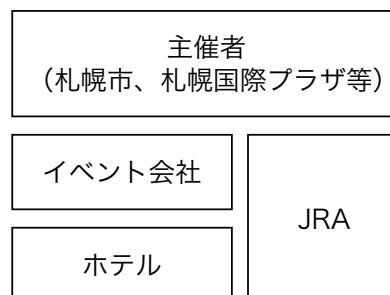
課題と解決策

施設	課題	対象法令	関係機関	解決策
JRA 札幌競馬場 (法制面)	本来業務以外での使用	競馬法 日本中央競馬会法	農林水産省	公益性・安全性等を担保のうえ、中央競馬及び馬事文化の発展に寄与することを条件に協議
JRA 札幌競馬場 (開催場所)	会場復元・清掃時間などから利用日は限られる	—	—	火～木は対応可能。当面は、案件ごとに協議



実施体制

競馬場の使用エリアの確認、電気・照明・映像・音響・空調設備の使用、清掃に関する作業時間などを入念に打合せ。ケータリングに関する保健衛生面の対応と厨房施設の使用確認も行った。





天然鍾乳洞の神秘的空間でのインセンティブパーティ

「MTBコンポーネント M9000シリーズ キャンプ」 ウェルカムパーティ



ガンガラーの谷〈沖縄県・南城市〉



古代遺跡発掘中の天然の鍾乳洞「ガンガラーの谷」で、企業のインセンティブパーティを実施。自然の中での開放感と神秘的な空間での特別な体験は、大きな盛り上がりと一体感を生んだ。



イベント成功のポイント

- アウトドアを好む参加者の嗜好性と天然の鍾乳洞という場とのマッチングの高揚感効果。
- ライトアップした神秘的な空間での特別感の提供。
- 地元の食材と酒を視覚的にインパクトある形で提供。
- ライブパフォーマンスによる一体感の創出。
- 会場側と主催側ディレクターの相互理解と信頼。



イベント概要

「MTB コンポーネント M9000シリーズ キャンプ」ウェルカムパーティ

- 実施日時：2015年2月4日
会場：ガンガラーの谷 ケイブカフェ
参加人数：約80人
内容：企業のインセンティブツアーのウェルカムパーティとして実施。
主催：シマノセールス株式会社



プログラム概要

- 18：30 ウェルカム生演奏 ウェルカムドリンク
- 18：35 挨拶・乾杯
食事・歓談・挨拶
- 19：10 ライブパフォーマンス①
食事・歓談・挨拶
- 20：00 ライブパフォーマンス②
- 20：20 締め挨拶
- 20：30 終了



実施報告

ステージでのライブパフォーマンス
沖縄民謡をラテンバージョンにアレンジした生演奏も

目の前での調理
沖縄県産の肉、魚、野菜をメインに豊富なメニューを用意

地酒の提供
工場直送のクラフトビールや、沖縄県産フルーツのリキュール、ハブ酒

会場入口 手書きウェルカムパネル
主催者企業に合わせ、手書きでカラフルなオリジナルパネルを準備

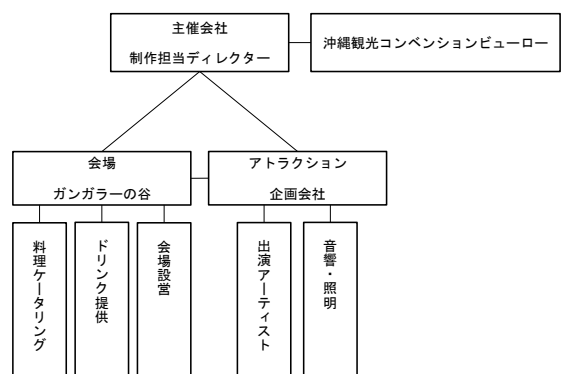
ウェルカム生演奏
参加者入場時にアコースティック編成の生演奏でお出迎え

課題と解決策

施設	課題	対象法令	関係機関	解決策
地域独自の施設 (鍾乳洞)	古代遺跡発掘中であり遺跡へのダメージ対策が必要	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ○発掘中スペースとパーティスペースが区切られているため、遺跡へのダメージ無く運営できる ○会場を運営する地元企業の私有地となっており、法的規制はクリアされている
	ドリンク類・料理の提供	食品衛生法	保健所	<ul style="list-style-type: none"> ○パーティスペースはオープンカフェとして運営しており、営業許可を取得 ○営業許可を取得しているケータリングを使用している

実施体制

会場が天然の鍾乳洞ということで、飲食の提供、ライブパフォーマンスの実施について1年ほどかけ、主催者と会場側の綿密な打合せが行われた。主催者側の企画会社・出演者も打合せと現場確認を十分に行い、三者一体となった運営体制が成功の一つの大きな要因となった。



ベストプラクティスにおける課題と検討内容一覧

■ 博物館・美術館・水族館

課題	関係機関	検討内容	参照
展示品保護への懸念	—	○開放条件の決定 実施スペースを使い分け	P.19
			P.27
			P.28
		火気の使用制限	P.27
		生花の持込制限	P.27
		色の付くアルコール（赤ワイン等）の制限	P.27
時間外利用が困難	施設所有者	○施設所有者に開催意義を説明	P.29

■ 歴史的建造物

課題	関係機関	検討内容	参照
施設の入入れ環境	所管省庁（文化庁）	○受入れ環境の整備 文化庁の補助金活用	P.31
施設保護への懸念		○開放条件の決定 アルコール提供の制限	P.33
時間外利用が困難	施設所有者	○市（施設所有者）が主催	P.33

■ 神社仏閣

課題	関係機関	検討内容	参照
時間外利用が困難	施設所有者	○施設所有者に開催意義を説明	P.35

■ 屋外空間（道路・市場・公園）

課題	関係機関	検討内容	参照
道路使用許可の 取得が困難	警察署	○警察署との協議を重ねる 地元行政、エリアマネジメント団体が 参画した実行委員会	P.37
			P.39
道路占用許可の 取得が困難	道路管理者 （所管区役所）	○所管区役所に開催意義を説明	P.39
天候条件	—	○テントの設置	P.23
		○代替施設の確保	P.41

■ 地域独自の施設（競馬場・鍾乳洞）

課題	関係機関	検討内容	参照
目的外利用が困難	所管省庁（農林水産省）	○施設所有者に開催意義を説明	P.43
施設保護への懸念	—	○実施スペースを使い分け	P.45
飲食提供への懸念	保健所	○営業許可を取得したケータリングを使用	P.45

Q&A

施設にとって開放する目的にはどのような例がありますか？

イ ベントの実施により新たな来館者層の開拓につながります。そのほか財政面や、ブランディング、地域貢献など、さまざまなケースがあります。

利用条件や規定があるのですが、それでもイベント実施は可能でしょうか？

条 件が明確であれば、PCO・DMCは実現可能な手法を提案することができます。そのためには、施設利用の注意事項等のルールを明文化し、利用者側で徹底してもらうことが重要です。ルールに則ったイベントの内容や運営方法を企画・設計してもらうことで、リスクが低減されるでしょう。また海外では、リスク低減のため施設を熟知しているイベント会社・ケータリング会社を指定、実施する施設もあります。

人員が少なく、専任の担当スタッフを用意することができません。

基 本的には、利用者側が多くの業務を行いますので、施設側は確認・管理業務が主となります。また、問い合わせ負担などを軽減するために、一般向けには貸出について公開せず、コンベンションビューロー等の MICE 関係者のみに情報提供する施設もあります。

1,000名程度の人数に対応できないと、ユニークベニューとしての貸出はできないのでしょうか？

国 際会議、企業ミーティングなど数百～数千人の大規模なものから、数十人程度のVIP向け・招待制のものなど、さまざまな規模のイベントがあります。収容人数に合わせた貸出プランが可能です。

ユニークベニューの利用対象となるのは、どのようなスペースでしょうか？

イ ベントのタイプは多様です。さまざまなスペースが貸出対象となります。施設の方が普段何気なく使用しているエントランス等のスペースが、利用者にとって魅力的であるケースがあります。たとえば、飲食の提供が難しい展示室はオープニングプログラムとして、アルコール等が入る前に見学ツアーを実施するなど時間・場所を区切った公開の仕方も想定されます。また、施設設計段階からイベント活用を想定したスペースを確保する施設もあります。

〈お問合せ先〉

観光庁 MICE担当参事官室	電話	03-5253-8938
	メール	jp-mice@mlit.go.jp
日本政府観光局(JNTO)コンベンション誘致部	電話	03-3216-2905
	メール	convention@jnto.go.jp

ユニークベニューベストプラクティス集

平成26年度ユニークベニューの開発・利用促進に関する調査

平成27年3月
国土交通省 観光庁

企画・編集 凸版印刷株式会社

本書は、観光庁、文部科学省、文化庁等からなる「ユニークベニュー利用促進協議会」による検討を経て作成しています。

本書の全部または一部を無断で転載・複製することを禁じます。